

モンテッソーリ教育における感性と知性の土台としての  
感覚教育の意義  
—幼児期から児童期の算数教育およびアート教育への発展を考察する—  
*The meaning of sensory education as the groundwork of sensitivity and intelligence  
in Montessori education system*  
— Development to arithmetic and art educations in childhood from those in early childhood —

野原由利子 *Yuriko Nohara*  
(人間発達学部)

村田 尚子 *Naoko Murata*  
(名古屋市社会福祉法人 野並保育園)

## 第 1 章 研究の目的

モンテッソーリ教育の内容は、1) 日常生活練習、2) 感覚教育、3) 算数教育、4) 言語教育、5) 文化教育 に大別される。その内感覚教育は、①視覚、②触覚、③嗅覚、④聴覚、⑤味覚 の五感を、生活の中の現実体験によって養うことを第一義としながら、2歳半から5歳にかけ、それぞれの感覚を孤立させて練磨することを目的とした教具を数多く使用する。感覚教具の目的は、①五感の練磨、②五感を使いながら、大きい・小さい、高い・低い、長い・短い、重い・軽いなどの感覚を獲得していく。この感覚の実感、言語の獲得を通して、少しずつ高い・低いなどの概念も獲得していくが、これらの概念は、幼児・児童の生活全般の認識を高め、深めていく力となるものである。それは数量概念の形成、言語の獲得、文化全般の分野の理解につながるものである。③幼児期の数量概念の獲得および児童期の算数学習の理解を深めることができる内容を含んでいる。そして④幼児期、とりわけ児童期の「表現」、美術、アート（絵画・デザイン・造形）活動における認識力・観察力・造形力涵養へのつながりを持つものである。

今回は③及び④についての分析を試みるものである。

## 第 2 章 研究の方法

1) まず、モンテッソーリ感覚教具の代表的なものについて、先行研究を整理して、①感覚教育、②言語教育、③算数教育、④文化教育の一部としての表現活動、につながる内容をまとめてみる。

感覚教育と算数教育とのつながりについては研究が進んでおり、筆者も本学紀要にも

まとめてみたが<sup>(注1)</sup>、表現活動とのつながりについてはまだ研究や実践が十分深められている状況にはない。

- 2) 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「小学校学習指導要領 図工科」における「表現」と「図画工作」教育の目標を比較検討する。
- 3) 生活と遊びを大切にしつつ、モンテッソーリ教育を取り入れている保育園の子どもたちの表現活動の姿を知る。
- 4) アメリカカリフォルニア州のモンテッソーリエレメンタリースクールにおけるアート教育の実際とその成果について考察する。
- 5) モンテッソーリ感覚教育の意義について考察する。

### 第3章 研究の内容

#### 第1節 モンテッソーリ感覚教具の感覚教育、言語教育、算数教育、アート教育へのつながり

先行研究<sup>(注2)</sup>を整理し、次のように一覧表にまとめてみた。

感覚教育・言語教育・算数教育・文化教育の一部としてのアート教育の関連一覧表

敏感期	感覚教具	感覚教育	言語教育	算数教育へ	アート教育
	感覚の孤立化・具現化	感覚器官の洗練 感覚体験の整理・秩序化 法則的な物の見方、考え方の習得	言語による概念の獲得	数量概念の獲得	五感の鋭敏化。 知覚・観察力・認識力。 美術に関する基礎知識
2歳半～ 4歳	円柱さし ＜写真1＞ A：10個の円柱の直径2.5cm。高さが0.5cm～ずつ漸減、一次元の変化 B：10個の円柱の高さ5.5cm、直径が0.5cmずつ漸減、二次元の変化 C：10個の円柱の直径が5.5cmから1cmへ漸減、高さが5.5cmから1cmへ漸減と同時に変化、三次元の変化 C'：10個の円柱の直径が5.5cmから1cmへ漸減、高さが1cmから5.5cmへ漸増と逆に変化、三次元の変化 P、Gの操作	大きさ、高さを識別するための視覚を養う	A：高い、低い  B：太い、細い  C：太くて高い、細くて低い  C'：太くて低い、細くて高い	同一性系列化推移率	円柱の形・大きさ。高さの知覚、変化についての観察と認識
日常生活と並行して2歳半～	ピンクタワー ＜写真2＞ 1000cm <sup>3</sup> ～1cm <sup>3</sup> までの10個の立方体 Gの操作	視覚、三次元の差別的な知覚に対する正確さの獲得	大きい 小さい	系列化推移率 1：1000 十進法の理解へ	立方体の形・大きさの知覚。変化についての観察と認識
2歳半～	茶色の階段 ＜写真3＞ 長さはすべて20cm 断面は100cm <sup>3</sup> ～1cm <sup>3</sup> までの10個の直方体 Gの操作	視覚、二次元の差別的な知覚に対する正確さの獲得	太い 細い	系列化推移率 1：100 十進法の理解へ	直方体の形・大きさの知覚。変化についての観察と認識

2歳半～	長さの棒 <p style="text-align: right;">&lt;写真4&gt;</p> 角柱の断面はすべて2.5cm × 2.5cm 100cm ～ 10cmの10本の角柱、色は赤に統一 Gの操作	視覚、一次元の差異的な知覚に対する正確さの獲得	長い 短い	系列化 推移率 1:10 長さを測る測定概念への暗示。量、基本的演算、十進法、メートル法への直接準備	長さの知覚。変化についての観察と認識
3歳半～ 5歳	色つき円柱 <p style="text-align: right;">&lt;写真5&gt;</p> A: 青色 一次元の変化 (円柱さしAと同じ) B: 赤色、二次元の変化 (円柱さしBと同じ) C: 黄色、三次元の変化 (円柱さしCと同じ) D: 緑色、三次元の変化・逆行 (円柱さしC'と同じ) S, Gの操作	視覚、赤・青・黄・緑の識別。大きさを識別するための視覚が養われているかを再確認する	太い 細い 高い 低い	系列化 推移率	色、円柱の形・大きさの知覚。変化についての観察と認識
2歳半～ 4歳半	色板 <p style="text-align: right;">&lt;写真6&gt;</p> 色: Sの操作 明度: Gの操作 1箱: 赤・青・黄2枚ずつのPの操作 3箱: 9色、明度7段階の識別、S, Gの操作	視覚、赤・青・黄・橙・緑・紫・桃・茶・灰、白、黒の識別。各色の明度の識別。	色の名称。 明るい・暗い。	同一性 仲間集め = 集合 系列化	色、明度の知覚と認識。色の対比や組み合わせの準備。グラデーションの理解
3歳～5歳	幾何タンス <p style="text-align: right;">&lt;写真7&gt;</p> 角材の視覚教具と触覚板を済ませたあと 1) 図形と図形枠のPの操作、 第1の引き出し: 直径が10cmから1cmずつ縮小している円形6個 第2の引き出し: 正方形の横の長さのみ1cmずつ縮小している四辺形6個 第3の引き出し: 正三角形、直角二等辺三角形、鈍角二等辺三角形、鋭角二等辺三角形、直角不等辺三角形、鈍角不等辺三角形1つずつ6個 (鋭角不等辺三角形は入りきれず、第6のタンスに便宜的に) 第4の引き出し: 正五角形、正六角形、正七角形、正八角形、正九角形、正十角形1つずつ6個 第5の引き出し: 平行四辺形2個、当脚台形1個、不等脚台形1個 第6の引き出し: 卵形、楕円形、花菱形、曲線三角形 2) 図形とカード(塗りつぶし、太線、細線)のPの操作	色々な平面幾何学的図形を識別するために筋肉と触覚の連合によって視覚を養う。	円・三角形・四角形・正方形 書き方、読み方の準備	平面幾何学への準備	平面図形の知覚を通しての認識・理解

3歳～5歳	幾何学立体 <写真 8 > 9 個の立体の触覚による認識。直径 6cm、高さ約 10cm 立体と立体を積み重ねる。側面を合わせる。 P の操作 立体と投影板とを合わせる。 P の操作	①立体の特徴の理解 ②立体を構成する各側面の分析と理解。	球・楕円体・卵形体・立方体・直方体・三角柱・円柱・円錐・四角錐	幾何学への準備	立体図形および投影図の筋肉感覚を通しての認識・理解。 観察力、日常の環境の中の立体の特徴の認識。描画・紙・粘土での製作への関心。陰影の気づきと観察
3歳～5歳	構成三角形 <写真 9 > 1 箱：三角形を使って色々な四角形を構成分解する 2 箱：同上の四角形を再構成する 3 箱：各三角形による構成分解を通して等価を知る 4 箱：六角形の構成分解 S、P の操作	視覚を通して、三角形の構成、分解によって生じる平面幾何図形の等価に気付かせるために、形に対する視覚を養う。	正三角形、直角二等辺三角形、鋭角二等辺三角形、鈍角二等辺三角形、正方形、長方形、平行四辺形、菱形、五角形、六角形	平面幾何を学ぶための間接的準備 三角形の構成、分解によって生じる平面幾何図形の等価の認識・理解	平面図形の観察・理解、図形と図形の様々な関係の理解、観察力、思考力、構成力
3歳～5歳	二項式 <写真 10 > 立体を箱の側面に合わせて組み立てる P の操作	三次元の視覚を養う		数学的思考の育成、二項式の代数教育への間接的準備、 $(a+b)$ の 3 乗 = 体積の内実の理解	多項式の体積の内実の理解。全体と部分の関係の把握。
3歳～5歳	三項式 <写真 11 > 立体を箱の側面に合わせて組み立てる P の操作	三次元の視覚を養う		数学的思考の育成、三項式の代数教育への間接的準備、 $(a+b+c)$ の 3 乗 = 体積の内実理解	同上
2歳半～4歳	触覚板 <写真 12 > 1 箱：表面の粗い板 2 枚、滑らかな板 2 枚を識別する P の操作 2 箱：同じ粗さの板を 5 組対にする P の操作 3 箱：粗さの順に識別して並べる G の操作	触覚、粗密の感覚の整理と洗練	粗い(ざらざら)、滑らか(つるつる、すべすべ) 書き方のための間接的な準備	同一性 = 同値性 系列化	きめ = 触感の理解
3歳～4歳半	布合わせ <写真 13 > 1 箱：材質の異なる 2 枚ずつの布を 5 組ほど対にする (13cm × 18cm) P の操作 2 箱：材質の異なる布地類 4～5 種類、全て白色を対にする P の操作	触覚の感覚訓練 布の感触と名称を知る	目が粗い、細かい、やわらかい、ごわごわしている、つるつるなど。 木綿、絹、ビロード、ネル、毛、チュールなど		きめ = 触感の理解、洗練

<p>3歳～4歳</p>	<p>1) 温度筒                  &lt;写真 14&gt;                  4段階の温度差(15℃ずつ)の金属製の筒を触り、同じ温かさのものを識別して対にする。                  Pの操作                  熱い：水1：湯3                  温かい：水2：湯2                  ぬるい：水3：湯1                  冷たい：水                  温かさの順に並べる。                  Gの操作</p> <p>2) 温度感覚板(温度板)                  &lt;写真 15&gt;                  6種類の材質の異なる同寸の板、各2枚ずつを対にする。                  Pの操作</p>	<p>触覚、温度差を識別して温度感覚を養う</p>	<p>熱い、温かい、ぬるい、冷たいなど。</p> <p>フェルト、木、スチール、スレート、コルク、ガラスなど</p>	<p>同一性 = 同値性、系列化</p>	<p>きめ = 触感の理解、温度感覚</p>
<p>3歳半～5歳</p>	<p>重量板                  &lt;写真 16&gt;                  重い板 —— 材質 柳                  中位 —— 材質 くるみ                  軽い —— 材質 松</p> <p>1) 2種類の材質により異なる重さの板4枚を手のひらに乗せて、目を閉じて触覚のみで識別して対にする。                  Pの操作</p> <p>2) 3種類の材質により異なる重さの板10枚ずつ。手のひらに乗せて、目を閉じて触覚のみで識別して分類する。                  G、Sの操作</p>	<p>触覚、重量感覚の整理と洗練</p>	<p>重い、軽い、中くらい</p>	<p>同一性 = 同値性                  系列化                  仲間集め = 集合</p>	<p>きめ = 触感の理解。                  重さの感覚の理解。                  圧覚の感覚の理解</p>
<p>3歳半～5歳</p>	<p>圧覚筒                  &lt;写真 17&gt;                  5段階の圧覚の筒</p> <p>1) ボタンの圧覚の同じものを対にする。                  Pの操作</p> <p>2) 圧覚の緩いものから、固いものに順序づける。                  Gの操作</p>	<p>圧覚の整理と洗練</p>	<p>①とても緩い                  ②緩い                  ③少し緩い                  ④固い                  ⑤とても固い</p>	<p>同一性 = 同値性                  系列化</p>	<p>圧覚の感覚の理解</p>
<p>4歳以上</p>	<p>実体認識袋                  &lt;写真 18、19、20&gt;                  布製の袋に色々なものを入れて手で触ることにより、対にしたり、仲間集めをしたり、段階づけたりする。                  P、S、Gの操作</p>	<p>触覚、材質による触感の理解</p>			<p>きめ = 触感の理解</p>
<p>3歳～4歳</p>	<p>雑音筒                  &lt;写真 21&gt;                  1) 同じ強さの音を見つけ、6組の対にする                  Pの操作</p> <p>2) 6つの音の強さの順にならべる                  Gの操作</p>	<p>音の強弱を識別する聴覚を養う</p>	<p>強い、弱い</p>	<p>同一性 = 同値性                  系列化</p>	<p>音の強弱への感覚の練磨</p>
<p>雑音筒を済ませた、およそ3歳～5歳</p>	<p>音感ベル                  &lt;写真 22&gt;                  1) 同じ音を見つげる(音合わせ)                  Pの操作</p> <p>2) 音階を構成する                  Gの操作</p>	<p>音の高低を識別する聴覚を養う</p>	<p>ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド                  高い、低い</p>	<p>同一性 = 同値性                  系列化</p>	<p>音の高低への感覚の練磨。                  音楽鑑賞ができる間接的準備</p>
<p>3歳半～5歳</p>	<p>味覚ビン                  &lt;写真 23&gt;                  基本的な味を対にする                  Pの操作</p>	<p>基本的な味を識別する為の味覚を養う</p>	<p>甘い                  辛い                  苦い                  酸っぱい</p>		<p>味覚への関心、洗練</p>

3歳半～ 5歳	嗅覚筒 匂いをかぎ分け、同じ匂いのものを 対にする Pの操作	色々な匂いを識 別する嗅覚を養 う	バラ、キンモ クセイ、シソ、 ニラ、ハッカ、 ニッキ、コー ヒー、ココア、 紅茶等		味覚への関心、 洗練
------------	---	-------------------------	--	--	---------------

**第2節** 幼稚園教育要領、「保育所保育指針」、「小学校学習指導要領 図工科」にお  
ける「表現」・「図画工作」教育における「ねらい」・「目標」と内容の比較

1) 「幼稚園教育要領」の「表現」の項では、次のように述べられている。

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する  
力を養い、創造性を豊かにする。

1. ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

2. 内容

- (1) 生活の中で様々な音、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするな  
どして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、  
つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさ  
を味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、かざったりなど  
する。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの  
楽しさを味わう。

とされている。

2) 「保育所保育指針」でも、以上とほとんど同じ文面であるが、内容に以下の2つが初め  
に記載されている。

- ① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。
- ② 保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたり  
して遊ぶ。

3) 「小学校学習指導要領」図画工作科では、学年に即して目標と内容が示されている。

## 第1学年及び第2学年

### 1. 目標

- (1) 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
- (2) 造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。
- (3) 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取るようにする。

### 2. 内容

#### A 表現

- (1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。
  - ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。
  - イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。
  - ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。
- (2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。
  - ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。
  - イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。
  - ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。

などのように、子ども一人一人の感じたこと、想像したことを自由に絵や立体、工作に表すことを重視している。このことは、小学校第3、4学年、第5、6学年にも共通している。そして1、2学年では形や色、3、4学年では形や色、組み合わせ、5、6学年では形や色、動きや奥行きなどへの着目を育てるものとしている。

**B 鑑賞分野** では、5、6学年になって「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じとること」の項目が出てくる。

### **第3節** 生活と遊びなどによる直接体験を大切にしながら、モンテッソーリ教育を導入している保育園の感覚教育活動と「表現」活動の連関性について

名古屋市の社会福祉法人立野並保育園では、0歳産休明けから就学前までの子どもたちに、生活と遊びなどによる直接体験を豊かに保障しながら、3歳児は週2日午前中1時間半、4、5歳児は縦割りではやはり2日間午前中1時間半モンテッソーリ教育の時間を設け、自主的に自分でまたは自分たちでやりたい教具を選んで取り組んでいる。自主性、探究心、

集中力などがつき、学ぶ意欲・力がついていることが園内外に認められてきている。数学的法則が内臓されている感覚教具に取り組み、対にする (Pairing)、仲間集めをする (Sorting)、段階づける (Grading) などの操作を繰り返す中で、感覚器官が練磨され、感覚が洗練され、事物の本質についての観察、把握が正確になっていく効果がみられる。感覚教育が「算数教育」に連動していくことについては、本学紀要でもまとめてみているが、感覚教育が「表現活動」にどのような影響を与えているのか、野並保育園の子どもたちの姿からその一端を見てみることにしたい。

実践者、実践記録は野並保育園副主任モンテッソーリ教育担当の村田尚子である。

### モンテッソーリ感覚教育活動とアート活動との連動性についての実践研究

#### ① 3歳児 (2歳半～4歳にかけての活動を通して身につけていった力)

2013年6月から9月頃の姿

1歳児クラスの子ども達は、感覚器官が敏感な時期である。特に色に対しても、興味があり、保育者のエプロンの色や、ボールプールに入っているボールを指さして「これは?」「これは?」と何度も尋ねる姿がみられていた。

2歳児クラスでは、色板Ⅰ(基本3原色が同色で2枚ずつ)や色板Ⅱ(11色が同色で2枚ずつ)を使い「あか、あか、同じだね」「きいろ、同じだね」などとペアリングを行いながら、色の名称を覚えていった子ども達。感覚教具の色板Ⅰ・Ⅱの活動を通して、『色』という概念が整理されていったようである。

写真…No.1, 2参照

<描画コーナー>

3歳児モンテッソーリ自由選択活動では、子どもの発達や興味、関心に合わせた『色水作り』、『水描きシート』、『絵具(3原色)を使った色作り』など、一連の描画活動が用意され、子どもがやりたい時に自由に活動できるようにコーナーを設定している。子ども達が楽しみながら主体的に環境と関わる中で、発見や驚きを感じながら、好奇心をより膨らませて欲しいという保育者の願いをもとに環境を用意している。

<色水作りコーナー>

3歳児のモンテッソーリ教育選択活動では、6月頃から色水コーナーが環境の中に設定されている。

基本色『赤、青、黄』の3原色の色水が入ったピッチャーから透明プラスチックコップに入れて、混ざり合う事で色がどう変化していくのか、子ども達自身による発見や驚きなどを体験していくという課題を持って進めていった。

始めは、「これと、これと一緒にしたら、先生!こんな色になった!」と具体的に『何色と混ぜると何色になる』と整理されていなかった子ども達であったが、活動を重ねて



いく中で、「赤と青で紫になったよ」「黄色と青を合わせたら緑になるよ」「み～んな一緒にしたら茶色になるんだよ」などと保育者に伝えてくるようになっていった。

この様な体験の前に、色板を通して色の名称を理解している事で、子ども達自身による発見がより確かで印象深いものになったと思われる。このことは、子ども達の満足感の高まりにもつながっていることを感じた。

写真…No.3, 4 参照

#### <水描きシート>

色水作りから絵の具での描画活動までの過程では、『水描きシート』を使い「筆の扱い方」や「筆の水加減」などを身につけていった子ども達は、画材の不思議さや筆を使う喜びを味わい、夢中になってシート一面に描き、筆が乾くと水をつけ、何度も繰り返し取り組む姿が見られた。

写真…No.5, 6 参照

#### <絵の具コーナー>

筆の扱い方を経験した子ども達は、実際に絵の具3原色（赤・青・黄色）を使い色作りを楽しんでいった。

初めてパレットで色を混ぜながら、「青と赤で紫!」「青と黄色で緑!」と一つひとつ確認しながら画用紙に描き、目を輝かせて「葉っぱの色できた」「オレンジの花の色」とイメージを膨らませていた。

保育者が、「赤と黄色と一緒にするとどんな色になるの?」と子どもに尋ねると「ちょっと待って…」と言いパレットを使い実際に色を混ぜ「オレンジだよ。ほらね。」と得意そうな表情を見せていた。

モンテッソーリ活動では、子ども自身の興味や関心が十分に満たされていく中で、自分のペースで課題を持ち取り組む姿を大切にしている。

色作りが楽しい子ども、絵にして描くのが楽しい子どもなど様々ではあるが、自由な発見や驚き、気付きを体験しながら、主体的に環境と関わる事の喜びは、他の活動に対してもつながり、広がっていく事が見受けられる。例えば、

- \* 砂場での『ジュースやさんごっこ』では、「ブドウジュースですか?」「オレンジジュースいかがですか?」と実際に色水を混ぜたり、「いっぱいですか?」「少しいいですか?」などと量も意識したりし、ごっこ遊びを豊かに展開させている。
- \* 身近なロッカーに貼られている友達の名前の文字を覚え「～ちゃんの『あ』だね」と伝えたり、モンテッソーリ言語教具での『やさい』『花』『魚』などの絵カードの文字カードを見て、『な』『す』と名称の文字を並べて単語を作ったりと、文字にも関心をもち、学んでいる。
- \* 夏野菜やひまわりの栽培、小動物（カタツムリ、カブトムシ）のお世話を喜び、図鑑を見ながら『知りたい』という気持ちを高めている。

写真…No. 7, 8 参照

② 4 歳児 (2 歳～4 歳児にかけての活動を通してつけていった力)

2013 年 9 月頃の姿

感覚教具の「幾何ダンス」の取り組みにより、視覚や触覚を働かせながら運動を通して形をとらえる経験を土台にし、メタルインセツで形を再生する事をくり返し行っている子ども達は、描画活動で、円形や楕円形、三角形などの図形を活用しながら、人間の顔、ハート、星など子ども達にとって魅力的な模様を描く事が出来るようになっていった。

メタルインセツの取り組みの発展として、メタルインセツを重ね合わせて細かな模様を作り、色塗りをしていく段階では、綺麗な模様が出来上がっていく事を感じられるようになった子ども達。色鉛筆を使い自分なりの色合いで細かな部分も丁寧に塗り色々な模様を完成させていった。

お友達に見せたり、「先生！きれいでしょ」「万華鏡みたい」と自慢そうな表情を見せたりしていた。

写真…No. 9, 10, 11, 12, 13 参照

5 歳児クラスでの 9 月の壁面製作では、トンボの羽に細かく模様を描き個性溢れる作品が出来上がっていった。

メタルインセツでの細かく模様を描き、色合いを子ども達なりに工夫しながら取り組んできた経験が生かされた『トンボ』製作である。

写真…No. 14, 15, 16 参照

③ 5 歳児 (2 歳児～6 歳児にかけての活動を通してつけていった力)

2013 年 6～11 月頃の姿

色板Ⅰ. Ⅱ. Ⅲでの取り組みを段階的に経験してきた子ども達は、色の名称から、色彩の濃淡に関心を膨らませる事によって、製作活動での七夕飾り作り(貝つなぎ、折り紙つなぎなど)では、色の濃淡、グラデーションを意識し「先生どっちが濃い？」と担任に聞き、濃い色から薄い色順に色彩感覚を洗練し、一人ひとりの思いをこめて綺麗に仕上げたいという気持ちが伝わってくる製作活動であった。

色板Ⅲの経験は、描画活動においても濃淡を付けて色を塗っていく事へとつながっていった。

子ども達が水やりや草取りなどお世話をして収穫した「じゃがいも」「きゅうり、とまと、なすなどの夏野菜」「さつまいも」などの観察画では、大切に成長を観察してきた子ども達が、光の当たり方や重なった影の部分、単色ではなく色か異なった部分などを実際の活動によって観察し、理解してきていることが生かされている。

色板Ⅲでの色彩の濃淡への色板並べと言う経験が生かされているようすで、「先生、みんな紫ではないよ。青に近い紫かなあ〜」「なすが光ってる！ピカピカだよ」などと、子ども達なりの発見を工夫して表現してみようとする姿が見られている。

写真…No.17, 18, 19 参照

#### 第4節 アメリカ・カリフォルニア州モンテッソーリエレメンタリスクールの アート教育

カリフォルニア州のモンテッソーリエレメンタリスクールではアート教育も大変重視している。美術担当者は特別な美術専門の教師ではなく、全ての教師はアートの力をつけ、他の教科と共に担任がアート教育も担当する。理由は担任は芸術家でなくても良いが、子どもたちの日常生活を知り、心の動きを理解し、表現したい時と場と手段とを理解できるからである。

モンテッソーリ教師たちは、全員アートに関する専門的教育を受け、子どもたちにも小学校課程の内に以下の内容のアート教育の基礎を教える。<sup>(注3)</sup>

- (1) アートは言葉を超える表現法である。
- (2) 芸術的感覚は、才能に規定されることなく、レッスンにより向上するものである。
- (3) アート教育の目的は、各人その人らしい創造性の涵養と発現をめざすものである。
- (4) 芸術家の人生、その時代ごとの作風に関心を持ち、学ぶ。
- (5) 色彩についての歴史を学ぶ。
- (6) 絵画についての歴史を学ぶ。
- (7) アートとデザインの「構成要素」(アートを読むときの言語) について学ぶ
  - ① 線 ② 平面的な形 (form) ③ 立体的な形 (shape) ④ 空間
  - ⑤ 遠近法 ⑥ 明暗度 ⑦ きめ、手触り (texture)
- (8) アートとデザインの「原則」(アートを読むときの言語) について学ぶ
  - ① 強調 ② バランスと比率 ③ コントラスト (対比)
  - ④ リズム ⑤ ムーブメント (動き) ⑥ パターン
  - ⑦ ハーモニー (調和・多様性) ⑧ コンポジション (構図)

アート教育により芸術的表現を学び、力を付けた子どもたちは、他の教科でも、課題に主体的、創造的に取り組み、理解を深め、自分らしい表現をするようになるという。

例えば、文字や数字を美しく書こうとする。グラフをわかり易く、美しく書こうと工夫する。ノートを美しく、楽しくつくっていく。生物などよく観察して記録を正確に、美しく行う。

全体に、感性と知性を相互に働かせながら、楽しくそして深く物ごとの本質を学びとるようになるという。

## 第5章 まとめと考察

日本の幼児教育、小学校教育における「表現」、「図工科」教育は、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「学習指導要領」にみられるように、子どもたち一人ひとりの感じ方、考え方を尊重し、その子なりの個性を大切に受け止めるという最も大切な本質を持つものとして、尊重すべきであると考え。

しかし、第1に子どもたちが心から表現したくなるような自然体験・生活体験・文化体験など豊かな直接体験が保障されていること。

第2に子どもたちの暮らす環境の中に、それぞれの表現が可能な豊かな素材や教材が十分に整えられていること。

第3に名画の鑑賞など、小学校5、6年生の課題となっているが、幼児期の内から優れた国内外の絵画やアート作品にふれて感動する機会がもっと大切にされるべきであること。

第4に教師や保育士が確かな芸術的知識や技量を身に付けていること。

など、課題は大きく残されていると思うのである。

モンテッソーリ教具など、優れた保育遺産、教具・教材が環境の中にあり、適切な使用方法が子どもたちに伝えられていることは、子どもたちの感性と知性を豊かに育むことに役立つことと思われる。

欧米のみならず、中国・台湾・韓国そして世界一周船旅のピースボートの保育室でもモンテッソーリ教育が取り入れられている今日、日本もモンテッソーリ教育の思想・内容・方法に更に注目すべき時であると考え。

注1 野原由利子、森下京子、村田尚子

「幼児の感覚教育とモンテッソーリ感覚教具の果たす役割について」

名古屋芸術大学研究紀要 第33巻 2012.3

注2 岩田陽子「モンテッソーリ教育の理論と実践 第3巻 感覚教育」

学習研究社 1978.12

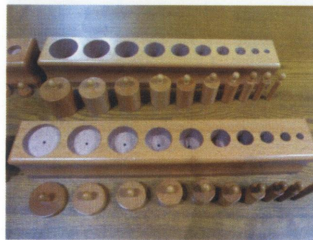
注3 Ms. Phyllis Pottish-Lewis 2013.7.21～25 横浜市学校法人高根学園にて講演。

カリフォルニア州立大学、ロヨラ大学院にて教育学を専攻後、教師として37年間、国際モンテッソーリ協会(AMI)の小学校(6～12歳)教員養成コースにて28年間指導者を勤めてきた。

写真 感覚教具の内容



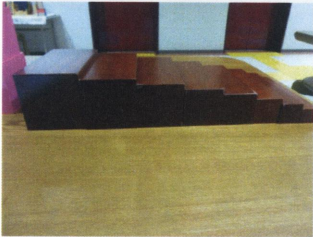
<写真1> 円柱さし A, B



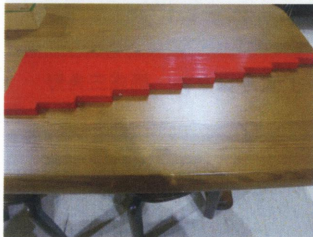
<写真1> 円柱さし C, C'



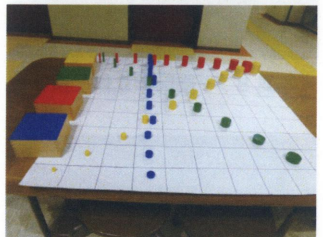
<写真2> ピンクタワー



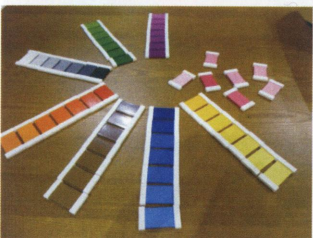
<写真3> 茶色の階段



<写真4> 長さの棒



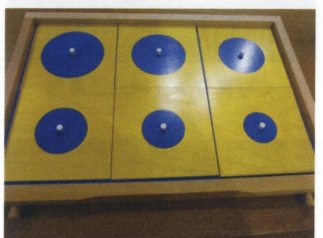
<写真5> 色つき円柱



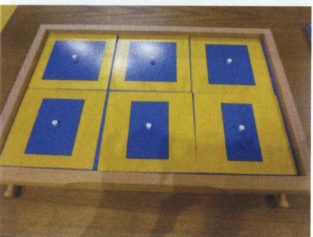
<写真6> 色板



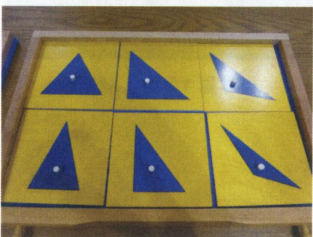
<写真7> 幾何タンス基本形



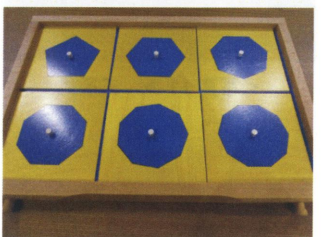
<写真7> 円形



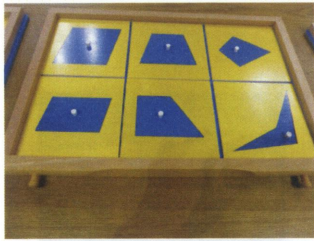
<写真7> 四辺形



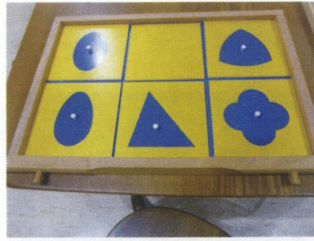
<写真7> 三角形の色々



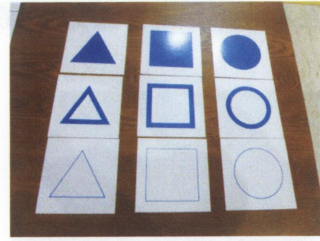
<写真7> 多角形の色々



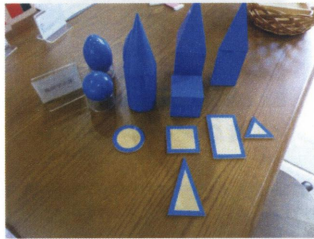
<写真 7> 四辺形の色々



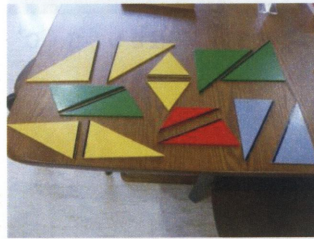
<写真 7> 曲線の形の色々



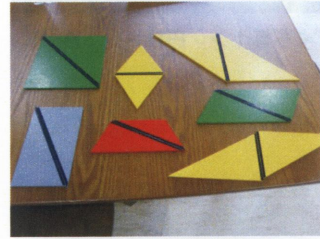
<写真 7> 図形とカード



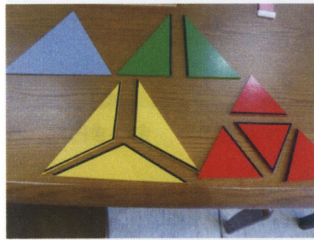
<写真 8> 幾何学立体と投影板



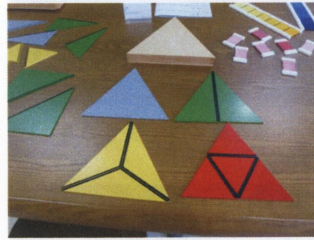
<写真 9> 構成三角形



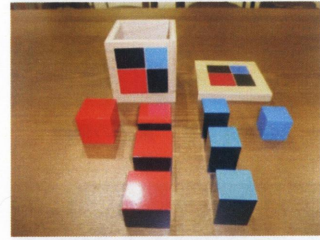
<写真 9> 構成三角形



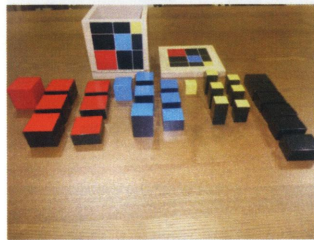
<写真 9> 構成三角形



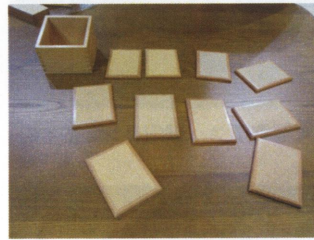
<写真 9> 構成三角形



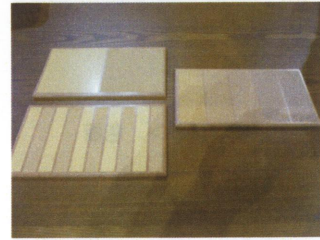
<写真 10> 二項式



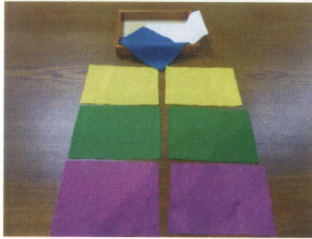
<写真 11> 三項式



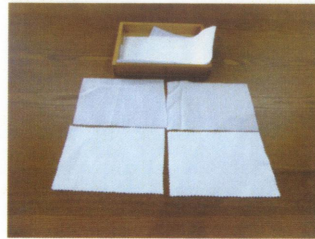
<写真 12> 触覚板



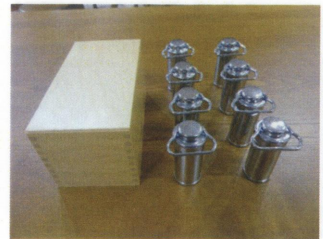
<写真 12> 触覚板



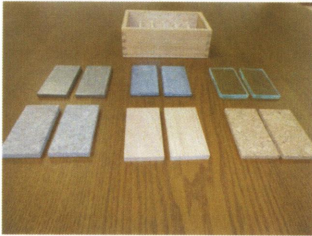
<写真 13> 布合わせ



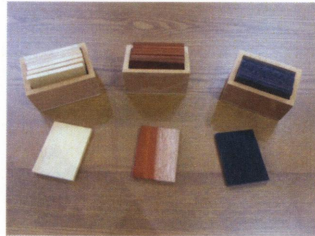
<写真 13> 布合わせ



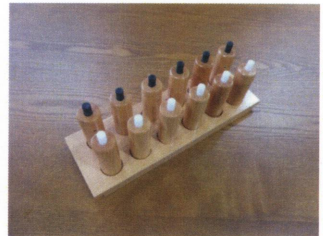
<写真 14> 温覚筒



<写真 15> 温覚板



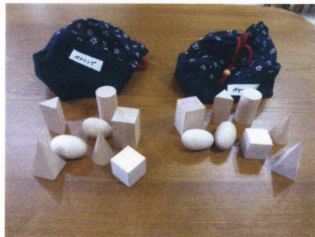
<写真 16> 重量版



<写真 17> 圧覚筒



<写真 18> 実体認識袋 (P)



<写真 18> 実体認識袋 (P)



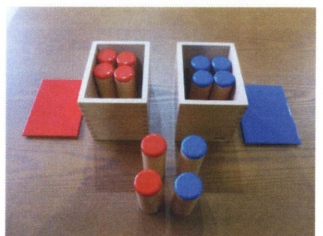
<写真 19> 実体認識袋 (S)



<写真 19> 実体認識袋 (S)



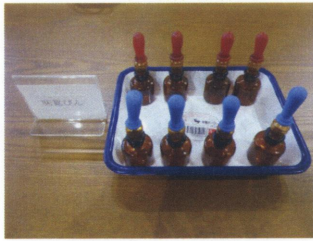
<写真 20> 実体認識袋 (G)



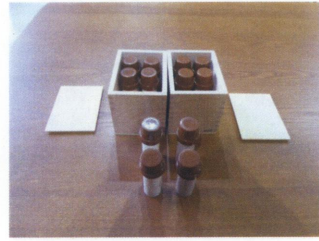
<写真 21> 雑音筒



<写真 22> 音感ベル



<写真 23> 味覚ビン



<写真 24> 嗅覚筒



<写真 25> 音感ベル



<写真 26> 味覚ビン



<写真 27> 嗅覚筒



<写真 28> 音感ベル



<写真 29> 味覚ビン



<写真 30> 嗅覚筒



<写真 31> 音感ベル



<写真 32> 味覚ビン



<写真 33> 嗅覚筒



野並保育園 感覚教具活動とアート活動の連動に関する実践写真

\* 2歳児～3歳児の姿

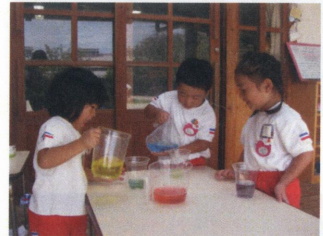
No. 1 (2歳児色板 I)



No. 2 (3歳児色板 II)



No. 3 (色水作り 1/2)



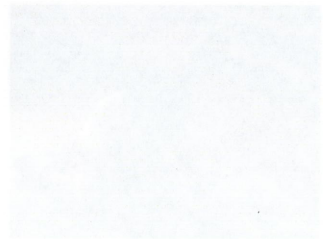
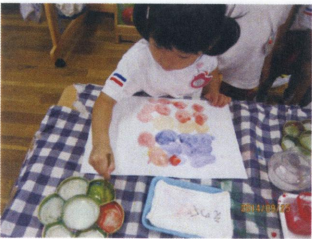
No. 4 (色水作り 2/2)



No. 5, 6 (3歳児水描きシート)



No. 7, 8 (絵の具・色作り)

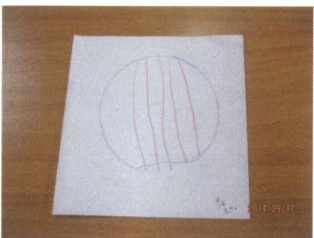


\* 3歳～5歳児の作品〈メタルインセッツ活動〉

No. 9 (3歳児メタルインセッツ)



No. 10 (3歳児)



No. 11 (4歳児)



No. 12 (5 歳児)



No. 13 (5 歳児)

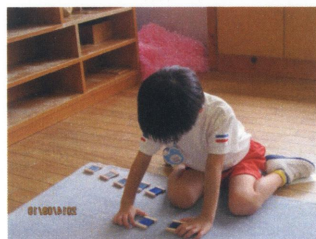


No. 14, 15, 16 (5 歳児トンボ製作)



\* 5 歳児の姿

No. 17, 18 (5 歳児 色板Ⅲ)



No. 19 (5 歳児観察画)

